

第1テーマ 暮らしの基盤を確立し、安全・安心で環境にやさしい地域をつくる (分科会番号①-⑧)

1 地域経済を活性化し、個性豊かなまちづくりを

「地方創生」やローカルアベノミクスで地域は再生できるのか? 「構造改革」で衰退した地域の再生へ、各地でとられてきた地域調査活動や中小企業振興条例制定などの取り組みも交えながら、地域経済再生の方向を探ります。

助言者 田中 重博(茨城大学名誉教授)

4 安心して住み続けられるまちづくりと公共交通

地域に安心して住み続ける上で欠くことのできない公共交通や上下水道などのライフライン施設、公共施設をどのようにして維持していくか、事例をもとに考えます。

助言者 中山 徹(奈良女子大学教授)

7 再エネ・省エネで温暖化防止と地域づくりを

原発事故から5年。国は原発に依存しないエネルギーベストミックスを約束したにもかかわらず、政権交代によって反古にされました。そこでCOP21での到達点もふまえて、今こそ再エネ・省エネを使った地域づくりを私達の手で考えましょう。

助言者 小林 久(茨城大学教授)

2 食の安全を守り、地域の農業を振興する

TPP・「農政改革」など、地域の農業のあり方が問われている中、食の安全を守り、生産者と消費者、自治体が共同する農業と地域再生の道を探ります。

助言者 中嶋 信(徳島大学名誉教授)

5 災害列島の実態を知り、防災・安全のまちをつくる

東日本大震災や阪神淡路大震災の教訓を深めるとともに、豪雨・台風・竜巻・河川氾濫など、いま全国各地で起こっている災害にも焦点をあてて、防災・安全のまちづくりへの課題を考えます。

助言者 中村 八郎(NPO法人くらしの安全安心サポーター理事長)

8 憲法を暮らしの中に活かす、草の根のとりくみを!

平和・基本的人権の尊重・民主主義・地方自治を実践している全国各地の運動を交流し、憲法を活かす自治体の役割について考えます。

助言者 田中 章史(憲法改悪阻止各界連絡会議)

3 徹底したリサイクルによるごみ減量と循環型の地域社会づくり

ごみ処理の広域化や産廃処理など、環境保全・ごみ減量に逆行する政策が進められています。温暖化の進行や放射線汚染廃棄物の処理問題も大きな課題です。ごみ処理と環境と安全を守る循環型社会づくりを考えます。

助言者 坂本 博之(弁護士・ごみ弁連事務局長)

6 原発被害の救済と稼働の中止、原発ゼロをめざして

福島第一原発事故による被害者の救済補償と放射性物質からの安全確保、原発稼働の停止と実効ある避難計画の策定、原発なしで地域を再生する施策など、原発ゼロに向けた政策と運動について考えます。

助言者 館野 淳(元中央大学教授)

●つくば駅までの所要時間と経路
東京駅より50分=JR山手線・京浜東北線「秋葉原」でつくばエクスプレスに乗り換え。羽田空港より90分=東京モノレール「浜松町」でJR山手線・京浜東北線乗り換え。「秋葉原」でつくばエクスプレスに乗り換え。成田空港より115分=京成本線「日暮里」でJR山手線・京浜東北線乗り換え。「秋葉原」でつくばエクスプレスに乗り換え。

第2テーマ 人間らしく生き、豊かに学ぶ (分科会番号⑨-⑱)

9 貧困問題と生活保護セーフティネットを考える

貧困が一層拡大する中、生活保護基準が引き下がり、制度が改悪されています。憲法25条をいかに、誰もが人間らしい生活を営めるように、セーフティネットのあるべき姿を考えます。

助言者 吉永 純(花園大学)

12 障害者権利条約を生活の中で活かすために

障害者福祉制度の見直しを検討され、負担増も狙われています。障害者児の生活に生じている課題を明らかにして、障害者権利条約を活かした「あるべき支援」のあり方を考えます。

助言者 佐藤 久夫(日本社会事業大学特任教授)

15 生存権としての公的医療保険制度を考える

市町村国保の段階的統合、都道府県単位化等の広域化、高すぎる保険料、滞納・差し押さえ、窓口負担などの問題をとりあげ、誰でも、どこでも、いつでも、安心して受けられる公的医療保険制度を考えます。

助言者 神田 敏史(神奈川県職労連委員長)

18 子どもの権利と生活・教育を考える

“子どもの貧困問題”について安倍政権は根本的な打開策を打ち出していません。教育現場・学童保育や地域社会など子どもを取りまく状況を見つめ、子どもの権利を守る取り組みや、現場の実態などから学びあい、そのあり方を考えます。

助言者 増山 均(早稲田大学文学学術院教授)

10 公契約適正化で、地域住民と公務労働者のくらしを守る

従前の公契約条例制定の取り組みなどを紹介しながら、公契約条例を活かしワーキングプアをなくし、地域住民サービスの質の向上を目指すこれからの自治体の雇用・労働政策のあり方を考えます。

助言者 永山 利和(元日本大学教授)

13 地域医療と自治体病院の役割を考える

地域医療の実態を見つめ、住民のいのちと健康を守る真の地域包括ケアと自治体病院の役割について考えます。

助言者 長友 薫輝(津市立三重短期大学教授)

16 学ぶ自由を保障する社会教育をめざして—地域・住民の視点から

教育への首長の介入を強める教育制度の中で、「権利としての社会教育」の創造が求められています。図書館、公民館など社会教育・生涯学習の実践に学び、地域づくりと社会教育を考えます。

助言者 佐藤 一子(東京大学名誉教授)

19 安全で豊かな給食をすべての子どもたちに

子どもたちの貧困な食生活の中で、食育はますます重要です。TPPや放射能汚染問題が注目され、給食の大規模化や民間委託化の進むなか、給食行政の役割を再認識し、安全で豊かな学校給食の方向性を考えます。

助言者 竹下 登志成(自治体問題研究所・研究員)

11 「最後の一刻まで人間らしく」～高齢者の暮らしを地域から考える

高齢者の思いに応えていないこの国の社会保障。「高齢者と家族の生活」とそれを支える医療介護等の「労働」を「人権」としてとらえ直すとともに、「地域」をキーワードに、住民の役割と国・自治体の責任を考えます。

助言者 碓井 敏正(京都橋大学名誉教授)

14 ヘルスプロモーション活動による健康づくり

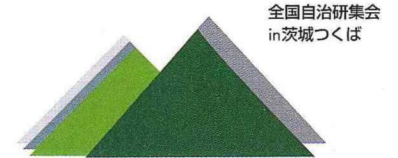
ヘルスプロモーションは、WHOが提唱した健康プロセスで、従来の疾病予防よりさらに生き甲斐や幸福感をめざしています。その実践例や取組状況、公衆衛生の役割等を考えます。

助言者 根岸 京田(東京保健生活協同組合理事長)

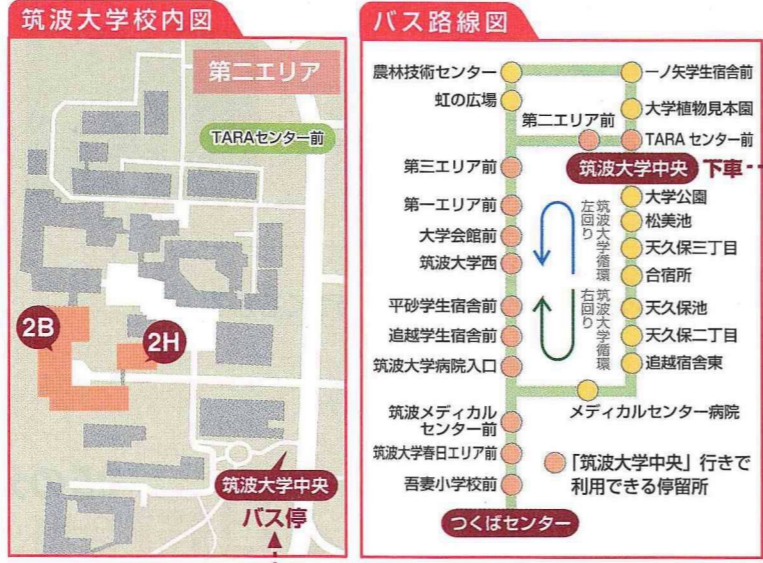
17 子どもが健やかに育つ、保育、子育て支援を(就学前)

国の外的な施策や新制度が導入されたなか、保護者・地域住民・保育労働者の共同で誰もが安心して子どもを生み育てることができる、自治体、地域社会づくりを考えます。

助言者 大宮 勇雄(福島大学教授)



会場案内図



第3テーマ 暮らしを支え、自治を育て、住民本位の自治体をつくる (分科会番号⑳-㉕)

20 地方分権・地方創生で、住民の暮らしと地方自治はどうなる

地方分権、広域連携や、国がすすめる地方創生戦略や道州制導入へのねらいなどを検証し、国・都道府県・市町村の役割と住民生活への影響を考えます。

助言者 村上 博(広島修道大学教授)

23 住民の主体性を育む取り組みと住民の声が生きる自治体づくり

主権者である住民の声が生きる自治体をどうつくるか? 自治体労働者・首長・議会・住民はどんな役割を担うのか? 住民の主体性を育み住民自治の力を高める取り組みを学び、交流します。

助言者 岡庭 一雄(長野県阿智村 前村長)

21 公務の産業化と自治体の役割

すすむ自治体業務の民営化のもと、骨太方針2015などでは「公務の産業化」や公共施設等総合管理計画などが打ち出されています。産業政策としての公務公共業務のアウトソーシングの問題と自治体の役割を考えます。

助言者 角田 英昭(自治体問題研究所・研究員)

24 住民のために働く公務労働者のあり方、仕事を考える

災害時の対応や住民のくらしを守るため、公務労働者の役割が明らかになってきました。公務員制度改革など厳しくなっていく公務労働者の立場、状況をみえながら、住民のために働く公務労働者のあり方について考えます。

助言者 二宮 厚美(神戸大学名誉教授)

22 講座・基礎から学ぶ自治体財政! —まちの財政を身近なものに—

「地方創生」で、自治体の財政はどうなっているのか? 地方交付税はどうなる? 住民の暮らしを支える自治体財政の基本的なしくみや問題点、財政分析の視点などを学びます。

助言者 平岡 和久(立命館大学教授)

25 女性が本当に輝ける地域・社会にするためには?

安倍政権の掲げる「一億総活躍」の中で、女性に焦点が当たっています。しかし身の周りを見れば、女性の生きにくさは変わっていません。問題はどこに? 変えていくには? 女性が本当に輝ける地域・社会にするために考えましょう。

助言者 清山 玲(茨城大学教授)

現地分科会 (番号㉖㉗)

26 筑波研究学園都市めぐり

筑波研究学園都市は、科学技術の振興と高等教育の充実および、首都圏の過密の緩和のため1963年に建設が決定された「計画都市」です。広い道路と多数の緑地や公園が見られる景観は、この街が国策で建設された証です。ロボット開発や宇宙開発等時代の最先端をゆく研究所を見学し、あわせて計画都市の影の部分を見学から見てみましょう。参加費:3000円(昼食代、バス代) 定員:50名(先着順) 開催時間:9時30分~15時30分 集合時間:9時00分 集合場所:臨時バスのり場 9番

27 常総市の豪雨水害とその後~現地視察と学習

昨年の9月に豪雨水害にみまわれた茨城県常総市の現地に赴き、当時の災害対応の状況や現在の災害の復旧・復興の状況などについて現地視察・学習を行います。参加費:3000円(昼食代、バス代) 定員:50名(先着順) 開催時間:9時00分~15時30分(つくば駅到着) 集合時間:8時30分 集合場所:臨時バスのり場 9番

